

5月15日 ヨハネによる福音書15章1～11節 今日の説教から

説教題：「愛にあふれた教会となるために」

今日の聖書箇所では、イエス様はぶどうの木を指して、「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる」と弟子たちに語っています。

ここで、イエス様につながっていても実を結ばない、信仰の実をつけない枝は切り落とされると言われています。私たちは信仰を告白して洗礼を受けたからと言って、それだけで救いへと至ることが出来るわけではありません。私たちは信仰に入り、神様の言葉に従い、その信仰によって義とされます。「洗礼を受ける」という私たちの行動だけによって簡単に救いへと至るのではなく、洗礼を受けてなおイエス様に背く人は、神様の言葉を裏切り続ける人は、滅びに至ると断言されているのです。

ただ、剪定というものは悪いものをそぎ落としていくことだけを意味していません。一つ一つの枝の中には健康な枝もあり、しかしほかの実を大きくするために切り落とされる枝もあります。これは、私たちの中から信仰が小さい者が捨てられてしまう、という事を意味するわけではありません。私たち一人一人に信仰の大きい小さい、強い弱いはあるかもしれませんが、それによって神様は私たちを「必要ない」と切り捨てることはありません。

ただ、本当に必要なものに栄養を与えて、必要ではないものをそぎ落としていくことは、ぶどうの収穫にとって必要なことなのです。これは私たちの中から誰かが捨てられるのではなく、私たち自身の中で、必要ではないもの、邪魔な要素を切り捨てていくことが求められているのです。それは例えば、断捨離のようなものでしょうか。今のこの時代、私たちは色々なものに囲まれて生活をしています。様々なものから欲望が生まれ、「もっと豊かになりたい」「もっといいものが欲しい」という思いにとらわれている人が多いように思われます。そうではなく、今私たちが与えられているもの、神様から頂いているものがどれだけ豊かなのかを理解して、それに「満足する」ことが私たちには必要なのです。そして、無駄なものではなく神様から頂いている豊かなものに「熱意と時間」という栄養を注ぐことで、私たちの信仰はより豊かに育っていくのです。私たちが今持っているものを最大限に活用して、そしてそのすべてをもって「神様の愛」を実現することが、私たちができる「豊かな実り」の一つの形なのだと思います。そして、私たちそれぞれが神様から頂いている賜物を意識して、それを最大限に活用することによって、私たちの教会は神様の愛を実現する場所となることが出来るのです。

私たちは、イエス様につながっている時点ですでに、多くの恵みを頂いています。それは神様を愛する信仰であり、この命を生き抜くための真実であり、そしてこの命が死によって終わるわけではないという、大きな希望を頂いています。私たちが神様を愛して、私たちが互いのことを思いやって、そして隣人たちと愛の交わりを行うことによって、その喜びはより多くの人々と分かち合うことが出来ます。私たちの持つつながりは、横へ横へと広がっていきます。はるか昔、2000年以上前の中東、海の向こうのエルサレムで語られた言葉が今私たちの間で分かち合われているように、イエス様のぶどうの木は多くの実をつけながらこの地においても広がっていくのです。

神様の愛の木に私たちが繋がれている、その喜びを胸に、今週一週間の、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書15章1～11節

- 1:「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にもいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。

- 9:父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にもあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。